

令和3年9月2日

一般社団法人 日本医療薬学会 第82回 医療薬学公開シンポジウム 開催報告書

第82回 医療薬学公開シンポジウム

実行委員長 松尾 裕彰

(広島大学病院 教授・薬剤部長)

令和3(2021)年8月28日(土)に広島県薬剤師会館ふたばホール及びWEB配信のハイブリッドで、第82回 医療薬学公開シンポジウムを開催いたしました(主催:一般社団法人 日本医療薬学会、共催:一般社団法人 広島県病院薬剤師会、公益社団法人 広島県薬剤師会)。COVID-19の感染拡大により、直前まで開催形態について検討し、県外から参加される講師及びシンポジストの先生方にはWEBで講演いただき、現地人数を縮小させていただきました。ハイブリッド開催ということもあり、全国から457名(現地参加19名、WEB参加438名)の方にご参加いただきました。

本シンポジウムは「AI・ICTと共存し歩む薬剤師業務の今後の展望」というテーマで、非常に多くの方に興味を持っていただき、病院、薬局薬剤師のみならず、製薬企業、医薬品卸売業者、学生等非常に多岐にわたる方々にご参加いただきました。

特別講演(座長:実行委員長 松尾)では、一般社団法人 医薬品安全使用調査研究機構 設立準備室 室長 土屋 文人 先生より、「AI・ICT活用において薬剤師業務を安全に推進するために克服すべき課題」についてご講演いただきました。シンポジウム(座長:独立行政法人 広島市立病院機構 本部事務局 契約課専門員 開 浩一 先生、JA 尾道総合病院 薬剤部 薬剤部長 堀川 俊二 先生)では奈良県立医科大学附属病院 薬剤部長 池田 和之 先生より、「医療情報のこれからと薬剤師 -電子処方箋・電子版お薬手帳のこれからと留意点-」、岡山大学病院 薬剤部 人工知能応用メディカルイノベーション創造部門 神崎 浩孝 先生より、「情報通信技術(ICT)を活用した、医薬品情報と薬学的介入事例の管理-クラウド型医薬品情報管理プラットフォーム「AI-PHARMA(アイ・ファルマ)」の活用事例-」、公益社団法人 広島県薬剤師会 副会長 豊見 敦 先生より、「電子お薬手帳と広島県HMネット」、愛媛大学医学部附属病院 薬剤部 薬剤師外来・総合診療サポートセンター兼任 越智 理香 先生より、「薬業連携に活かすHiMEネット ~SNSを利用した保険薬局との連携~」についてそれぞれご講演いただきました。様々な薬剤師業務が電子化していく中で、我々が選択できるツールが増えています。裏を返せば、それぞれの特徴や問題点等について事前に十分な情報を収集することが難しくもなっています。そのような中で、現場でAI・ICTを活用していく上で克服すべき課題や、実際にツールの開発に携わっている先生、業務に取り入れているご施設の先生方からその活用方法や問題点等をご教示いただき、明日からの医療に繋がる知見が得られたと考えます。

最後になりましたが、本シンポジウム開催にあたり、ご支援いただきました日本医療薬学会をはじめ、ご協力いただきました全ての方に心より感謝申し上げます。